

総務大臣表彰式に参加して

京都市担当行政相談委員 富松 勝子

日時： 令和元年 10 月 2 日（水） 午前 10 時 10 分から

場所： 京王プラザホテル 5 階（東京都） コンコードボールルーム

この度は総務大臣表彰の受賞式に全国で 98 名の行政相談委員が受賞され、京都からは舞鶴市担当藤本功委員とわたくし富松が受賞させていただくことになり、参加して参りました。

この名誉に際しまして、本当に嬉しい 1 日となりました。

当日の様子をお知らせしたいと思います。

表彰式当日は開会まで全国の行政相談委員は、個々に壇上前で記念撮影をして過ごしておられました。

始めに寺田稔副大臣より高市早苗大臣の式辞が代読されました。

式辞内容の要旨は、「行政相談委員は現在全国で約 5000 人が活動している。この制度も 2 年後には還暦（行政相談委員制度 60 周年）を迎えるが、今後さらに重要な役割をお願いすることになる。災害対策や多様化する社会制度に対応するため、行政と国民との懸け橋になって頂かねばならない。」とのことでした。

次に、総務省本省幹部の紹介がなされ、表彰状の授与が行われました。各地域毎に代表委員と同伴者が登壇、寺田稔副大臣より受け取られました。

受賞者代表委員として北海道の根室市担当伊藤むつみ委員が謝辞を述べられました。「終生忘れ得ない大きな喜び。相談者（国民）と行政の取次役として責任を痛感している。初心にかえり、正義と公平の気持ちを大切に今後とも精一杯努力します。」

式の終盤に高市早苗大臣が登壇され、挨拶されました。

「一昨年まで総務大臣をしており、再度この任に就いた。行政相談委員が集めて下さった国民の声を行政に反映するのが私の仕事、私自身最近、親の介護を経験した。これからも多様な相談が寄せられると思うが、皆様の活動が、地域のため、国・行政のためになる。今後とも頑張って頂きたい。」

最後に、高市大臣と受賞者全員で記念撮影を行いました。

高市大臣は降壇され、周囲に集まった地域の委員の方々と雑談されました。

私もお話させて頂き、9 月 30 日午後 8 時 59 分～BS11 チャンネルに高市大臣が、ご出演されていたので、「一昨日のテレビ放送を拝聴しました。」と申し上げると、一言「ありがとうございます。」と仰って握手してくださいました。

テレビの内容は、①日本のセキュリティー問題、②地方創生・地域活性化対策、③ふるさと納税の課題、④防災対策・災害対応の重要性、⑤マイナンバーカードの普及と有効利用の可能性（健康保険証転用案）などについてでした。

昼食会は8人のグループの円卓で、私達の席には総務省山内達矢審議官が同席して頂き、総務省の幅広い行政範囲についてが話題となっていました。

今回の総務大臣表彰は、私にとっては思ってもいなかった慶事ですが、全国の表彰者の方々とご一緒できたこと、また日常の相談業務というささやかな活動が、微々たることながら、国家の行政組織の一端を担っているのかなと改めて認識したような気がいたします。

令和元年10月9日



富松夫妻



(中央) 富松委員、(中央右) 高市大臣

総務大臣表彰身に余る栄誉をいただいて

舞鶴市担当行政相談委員 藤本 功

令和元年 8 月末の暑い日に「京都の相談センターから電話ですよ」と妻の声。今の時期に何の要件だろう。思い当たる節がない中で受話器を受け取ると「所長の廣田です。おめでとうございます。総務大臣表彰に内定されましたので、お知らせします。」とのこと。「え！大した活動も実績も無いのにとんでもないことです！びっくりです！」と応えました。

「近く総務大臣から正式に招待状が届くと思いますので、東京も楽しんできてください」と吉留係長さんからの電話で、家内もびっくりでした。

8 月 30 日付けの消印の郵便で石田真敏総務大臣の案内状と誠に親切丁寧な注意事項などが届き、改めて身が引き締まる思いで読み返しました。

当日は、東京都庁の真ん前の京王プラザホテルで表彰式が挙行されましたが、受付を済ませるとかって京都の所長をされた鈴木秀和さんと菊地康浩さんに出迎えていただき、記念すべき瞬間だからと演台をバックにカメラのシャッターを押していただきました。

表彰式には、京都から富松勝子さんと二人が参列しました。ブロックごとに一人一人の受賞者の名前が読み上げられ、代表者に表彰状と副賞(根来塗の整理箱)が順次授与されました。

就任されたばかりの高市早苗大臣の出席は、当初難しいとの事であったようですが、事務局の猛烈なアタックにより、激務の合間を縫って式典終了間際ぎりぎりにはせ参じてお祝いの言葉と記念撮影に入っていました。

昼食後は、皇居の中を汗をふき、日陰を求め 1 時間余りゆっくりと歩きながらユニークな説明を聞き特別参観をさせていただき、感慨深い最良の 1 日となりました。

振り返ってみると平成 19 年の年始めに舞鶴市の担当係長から相談委員の打診がありました。この年は、町内会長に選出された年でもありましたが、京都府を退職し、その後の第 2 の職場も卒業した時期でしたので、何か世の中にお返しをしなければと思っていたので、要請を受けることとし、以来 12 年余りの長きに亘り末席を汚してきました。

この 12 年間は、自分自身の研鑽の機会でもあったと思いますが、今日までセンターの皆さんをはじめ多くの方のご支援とご協力をいただき、今回の栄誉につながったと深く感謝し、お礼を申し上げます。

受賞後、地元の舞鶴市民新聞の取材を受けましたが、配達された新聞を手にとりびっくり！掲載記事は写真入りで大きく取り上げていただき家族中目を丸くして驚いていました。この裏には吉留麻子係長の工作と仕掛けがあったようで、相談委員の PR には一役買うきっかけを作っていただいたと思います。

過去の相談記録簿を読み返してみると、その内容はまさに十人十色で私の知識と経験では的確なア

ドバイスができず無料法律相談の弁護士さんを紹介する事が多かったと思いますが、中には「聞いてもらっただけで満足です」と言って帰られる方もかなりあり、人間関係が年々希薄になっていると痛感する事がありました。

最近の相談でこんな事がありました。子供も兄弟もまた親戚も無い老夫婦が、「自分達が死亡した場合、葬式や納骨は誰がしてくれるのか。とても心配です」と。お墓の心配など同様の相談が他にもありましたが、このような相談が今後増えるのではないかと思います。

道路・河川・堤防等の管理についての要望は、かなり聞きましたが、最近の頻発する災害を目の当たりにして今後さらに増加するのではないかと考えています。

今後とも、関係者の皆さんにご支援とご協力をいただき、相談者に寄り添い親切丁寧に行政に関する苦情の解決や困り事の相談に務めたいとの思いを新たにしていますので、よろしく願いいたします。



表彰式前の藤本委員



左から富松委員、藤本委員

●舞鶴市民新聞社からの取材があり、10月15日に記事が掲載されました。

(舞鶴市民新聞掲載記事をご覧ください。)

●FMまいづるからの取材があり、11月4日に、インタビュー形式で生放送されました。